

メキシコとの国際共同研究の発展—SATREPS・オンサイトラボ・共同声明—
Development of International Joint Research with Mexico- SATREPS, On-Site Laboratory, Joint Statement-

○中野 元太・伊藤 喜宏
○Genta NAKANO, Yoshihiro ITO

In November 2024, the Kyoto University On-site Laboratory for earthquake and tsunami research was established at the National Autonomous University of Mexico. In addition, Kyoto University's Disaster Prevention Research Institute (DPRI) and the Mexican government signed a joint statement for further cooperation. These results are considered to be the derivatives of the recent international collaborative research between DPRI and Mexican institutions. However, this report aims to describe the above outcomes by introducing a more comprehensive perspective of evaluation. The three keywords are: the chain of teacher-learner relationships, internalization, and serendipity.

1. はじめに

2024年11月、京都大学 On-site Laboratory「地震・津波未災学国際 Lab」(以下、オンサイトラボ)がメキシコ国立自治大学(以下、UNAM)と京都大学防災研究所(以下、防災研)内に開設したことを記念する開所式が UNAM で開催された。同月、防災研とメキシコ政府の防災研究機関メキシコ国立防災センター(以下、CENAPRED)が、共同声明(Joint Statement)を締結し、防災研の研究成果をメキシコの防災政策にも活用していく方針を共有した。

オンサイトラボや共同声明という成果は、そのベースに防災研と UNAM、CENAPRED が協働して実施している、地球規模課題対応国際科学技術協力プログラム(SATREPS)「メキシコ沿岸部の巨大地震・津波災害の軽減に向けた総合的研究」(2016年-2022年)(以下、SATREPS 第1期)と「北中米太平洋沿岸部における巨大地震・津波複合災害リスク軽減に向けた総合的研究」(2024年-2029年)(以下、SATREPS 第2期)がある。

しかし、本報告は、そのような直近の SATREPS をめぐる、短期的かつ限られた関係者のみを対象とした評価の視点で国際学術交流の発展やオンサイトラボといった成果を見るのではなく、より長期的かつ多くの関係者を踏まえた評価の視点を導入して、国際学術交流の発展を記述することを目的とする。キーワードは、教える—教えられる関係の連鎖、内化、セレンディピティの3つである。まずは、オンサイトラボ開所式の様子と共同声明の経緯を概観する。

2. オンサイトラボ開所式

オンサイトラボの制度的枠組は割愛するが、京都大学の全学的制度であり、海外の大学等に設置する現地運営型研究室である。本報告に関連した開所式のポイントは2つある。一つは、大学を超えた関係者の出席である。開所式には、京都大学副学長や防災研所長に加えて、UNAM 側の学部長級が出席したほか、在メキシコ日本国大使、JICA メキシコ事務所長、CENAPRED 総局長、メキシコ外務省国際協力開発庁(以下、AMEXCID)メキシコプロジェクトオペレーション総局長らが出席した。大学間の取り組みに両国政府の高官らが出席したことは注目に値する。

もう一つは、開所式の日、京都大学防災研究所の元教授である A 氏の訃報が届き、開所式でも共有され、メキシコ側からも A 氏を悼む声が多数挙がったということである。UNAM のビクトール・クルス教授が提案し、会場全体で1分間の黙とうを捧げた。A 氏は1992年から UNAM に滞在し地震学の指導をしたほか、1998年から2006年まで UNAM 地球物理学研究所の教授を務めた。また、1990年には1年間、防災研の元教授である B 氏も CENAPRED に滞在し、地震学の指導を行った。

3. 共同声明

防災研、CENAPRED、AMEXCID、JICA メキシコ事務所が共同声明に署名した。これは、オンサイトラボや SATREPS の研究成果をメキシコの防災政策にも活用していく方針を共有し、メキシコの防災ネ

ットワークにも防災研が参画していくことを目的としたものである。

共同声明は当初、防災研、CENAPRED、JICA メキシコ事務所が署名し、AMEXCID とメキシコ国家防災調整局は立会人 (Witness) として署名する方針であった。しかし、合意内容が防災研と CENAPRED に関係する項目であったことから、メキシコ国家防災調整局は辞退し、AMEXCID の法務担当も署名者となることは不適格と回答があった。しかし、直後に、AMEXCID のアジア地域担当官より、立会人としてではなく、署名者として署名することが表明され、同庁の強い意向で、声明には「AMEXCID も積極的に参加する」との文言が加えられた。

オンサイトラボ開所式と共同声明といった成果は、SATREPS がベースにあるとも言えるが、より長期的かつ多くの関係者を踏まえた評価の視点を導入することで、国際学術交流の発展をより深く考察することができる。

4. 教える－教えられる関係の連鎖

前述の通り、防災研と UNAM そして CENAPRED の交流は 1990 年頃からの A 氏と B 氏にまでさかのぼることができる。そして、ここから防災研、UNAM、CENAPRED の間の、よい意味での教える－教えられる関係の連鎖を記述することができる。

まず、B 氏が CENAPRED で地震学の指導をしていた際に地震観測機材の若手担当官だったのが、現在の CENAPRED 総局長であり、B 氏の指導を受けた人物であり、第一の、教える－教えられる関係が見いだせる。また、A 氏が UNAM で教鞭をとっていた際の学生の 1 人が、前述のクルス教授で、「A 氏がフランス留学のきっかけをくれた」と語っている。その後、クルス教授は SATREPS 第 1 期の研究代表となり、防災研の学生を指導したことが評価され、2022 年度の DPRI Award「研究教育業績賞」を授与された。また、SATREPS 第 1 期の研究代表である伊藤准教授の指導学生であったレイムンド・プラタ氏は、現在、UNAM の教員として SATREPS 第 2 期で中心的役割を果たしている。さらに、SATREPS 第 2 期のメキシコ側研究代表のホスエ・タゴ准教授はクルス教授の教え子であり、防災研と UNAM との間の教える－教えられる関係の連鎖が続く。さらに、UNAM のサンチェス・セスマ教授も、2014 年度に DPRI Award「研究教育業績賞」を授与されており教える－教えられる関係のキーパーソンとなっている。

5. 内化－政策実現の手段化

こうした防災研と UNAM との間の長年の交流に支えられて SATREPS 等の国際共同研究が実現してきたことと、CENAPRED や AMEXCID が積極的に共同声明やオンサイトラボ開所式に参加してきたことは、どのような関係性があるのだろうか。それを、SATREPS 第 2 期の研究対象地域とメキシコ政府の関心との一致に見出すことができる。

SATREPS 第 2 期は、メキシコ太平洋岸マンサニョ港とエルサルバドルのアカフトラ港を対象にリスク評価を行う。同港はメキシコで最大の物量を扱う港であり、2024 年 11 月には大統領が同地を訪問し拡張工事の開始を宣言した。メキシコ政府にとって同地のリスク評価は政策的重要性が増したとも言える。さらに、CENAPRED は国家防災委員会や官・学防災ネットワークの構築、地震リジリエンス計画を進めており、これらのどれもが、SATREPS 第 2 期の研究計画を推進することで得られる成果ともかかわりがある。さらに、AMEXCID は、南南協力を推進しており、メキシコからエルサルバドルへの技術移転も計画している SATREPS 第 2 期は連携の価値があると判断される。すなわち、メキシコ政府にとっては、SATREPS 第 2 期の推進こそ、政策の実現につながるとの期待があり、政府の取り組みにも位置付けたい（内化）との意図がある。

6. セレンディピティ

セレンディピティとは、様々な定義がなされるが、概ね偶然の出会いを指す用語である。防災研とメキシコとの交流が SATREPS 第 1 期と第 2 期を支え、政策的背景もありメキシコ政府にとっても防災研との交流の重要性が増したことを説明した。

そしてこれらの成果には、セレンディピティも重要な要素である。たとえば、オンサイトラボや共同声明の取り組みを積極的に支援した JICA メキシコ事務所長は、SATREPS 第 2 期のテーマである港湾防災に対する関心が高い。偶然にも 2023 年に着任した。また在メキシコ日本国大使も本省在籍時に SATREPS のスキーム開発に関与した人物であり、オンサイトラボ開所式直前に着任したことから、同式典への出席が実現した。そして何よりもメキシコ側において、1990 年頃に防災研教員とかかわりを持った人々が、現在は研究や防災政策に関わる要職に就いていることも、セレンディピティを支えていると言えよう。